

特定非営利活動法人びーのびーの 2017 年度事業報告書

2017 年 4 月 1 日～2018 年 3 月 31 日

第 1 1 年を振り返って

年度当初の春は「おやこの広場びーのびーの」、「港北区地域子育て支援拠点どろっぴおよびどろっぴサテライト」において利用親子数が激減するというひろばの様相に変化を感じたスタートだった。いよいよ就労人口増加の影響が反映された状況だった。

新規開設した「地域福祉・交流スペース COCO しのはら」は多世代交流拠点として法人初の高齢者支援分野を担い、介護予防的講座の開催や食事の提供、乳幼児とのふれ合いの機会として預かり保育「まんまーる篠原」と共に篠原地区に根ざしていく第 1 歩を踏み出すことができた。地元の町内会、地域ケアプラザ、地区社会福祉協議会、港北区等の協力のもと、確実に常連の利用者も増えてきた 1 年であった。

預かり保育「まんまーる」は 5 周年を迎え、利用者は年々増加している。11 月の 5 周年イベントでは、元利用家庭が参画するなど、びーのびーのらしい次世代の循環を実践している。

小規模保育事業「ちいさなたね保育園」は職員の連携が強化され、保育のみならず地域に開かれた園として積極的に地域住民と接点を持つプログラムに挑戦している。

『第 3 次 港北区地域福祉保健計画』策定において、「区全体の次世代育成」が掲げられた今、各事業が活動するそれぞれの地区で「子どもをまん中」に保護者である親とともに、地域づくりへの参画意識が高まるための様々なメニューをそれぞれが精一杯、発信することを志してきた 1 年であった。

「企画室」「法人事務局」は、これまでのご縁があって商店街通りの利便性の良い立地に移転した。移転に際しては、「子どもと保育総合研究所」からの多大なご協力をいただいた。新しい環境になったことで多様な人が訪れ様々なアイデアが集積する可能性が生まれたことも大きかった。

これらの実践が多面で認められ、2017 年度は以下のような表彰、助成等に繋がったことは、これからの法人活動に大いなる励みとなった。

- 5 月 第 8 回 横浜・人・まち・デザイン賞（地域まちづくり部門）
- 10 月 第 35 回 港北区社会福祉大会における顕彰 永年会員功労
- 12 月 平成 29 年度 程ヶ谷基金 男女共同参画・少子化に関する顕彰事業 活動部門 活動賞 受賞
- 1 月 平成 29 年度 よこはまグッドバランス賞 認定
- 3 月 平成 29 年度 かながわボランティア活動推進基金 21 ボランティア活動奨励賞
- 3 月 東芝従業員向けイーパーツリユース PC 寄贈プログラム申請 リユースパソコン寄贈

第 2 事業内容

1. 子育て支援施設の運営

① 「おやこの広場びーのびーの（菊名ひろば）」

（横浜市子ども青少年局委託事業 親と子のつどいの広場事業）

(1) 基本データ

① 対象	主に 0 歳から 3 歳までの未就学児とその保護者
② 実施場所	横浜市港北区篠原北 1-2-18
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:30 第 3 水曜 12:00～15:30
④ 従業員数	9 名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none">・子育て親子の交流、集いの場の提供・子育てに関する相談の実施・地域子育て関連情報の収集及び提供・子育て及び子育て支援に関する講習の実施・一時預かりの実施

(2) 報告

1) 共に育ちあい育てあうひろば

会員同士、信頼関係を結び、声をかけあいながら子ども達の成長を共に見守り合う、緩やかなひろばの雰囲気作りができた。

ボランティアと定期的な様々なイベントを開催しひろばと利用者との交流を図った。

土曜ひろば開館を年4回実施。毎月1回以上のブログ・Facebook・広報紙などの更新。

地域イベントに参加し地域との交流を深めた。

- 2) 当事者性を大切に
ひろばの様子などを気楽に話せる会を月1回行い、親子が今、やってみたいことを実現できるようサポートを行った。
- 3) 座談会
0才児親子向けの座談会を年9回実施。利用者の声を聞き、さまざまなテーマ（おむつはずれ・離乳食など）で、年5回座談会を実施。広報紙に報告を掲載。
- 4) ひろばと地域を結び
毎月1回公園で外遊びを実施し、地域に向けて開かれた会を行った。地域活動連絡会を開き、活動報告、交流を図った。
- 5) 一時預かり
週1回一時預かり専任スタッフを導入。安定したスタッフ体制を組みひろばらしい一時預かりを行った。

② 港北区地域子育て支援拠点どろっぴ

(港北区地域子育て支援拠点委託事業)

(1) 基本データ

	どろっぴ	どろっぴサテライト
① 対象	主に0歳から3歳までの未就学児とその保護者	
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-57-3	横浜市港北区綱島東3-1-7
③ 開催日時	火曜～土曜 9:30～16:00（祝日と年末年始及び特別休館日を除く）	
④ 従業員数	18名	9名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・親子の居場所 ・子育て相談 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てサポートシステム ・利用者支援事業 ・人材育成 ・ネットワーク ・情報収集、提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者支援事業

(2) 報告

- 1) 子育て情報の発信ツールとして区づくり推進費で実施してきた子育て応援メールマガジン「ココめる」から岩崎学園情報専門学校と区との包括協定により子育てアプリ「ココアプリ」が完成し、PBL（プロジェクトベースドラーニング）の手法で、次世代を担う学生が主体的になってモニター実施で検証を重ねながらプロセスを重視し協働で進めてきた。
- 2) どろっぴでは近隣公立中学校（大綱中）との触れ合い体験授業で（2年生、3年生全クラス）、子育て家庭との交流の場を設定。実施成果のアンケートを取りながらさらなる展開に向けて検討を行った。また中学生だけでなく地元小学生が日常的にひろばに遊びに来るなど、育てられた子が育てる側に循環するような機会が増えてきた。
- 3) どろっぴサテライトにおいては隣接の綱島東小学校の特に個別支援級との交流が進み、教職員や主任児童委員などの協力を受けながらそのきっかけが日常的な親子と児童との触れ合いに繋がっている。
- 4) 妊娠期支援として2拠点で毎月1回ずつ開催している土曜両親教室については2～3倍の申込みがあり、円滑に抽選から受講実施まで助産師と連携しながら開催して行くことができた。先輩家庭の循環も見られ、申込み段階からの傾向分析とそれによる中身（進行）の度重なる改変を行ってきた。またその後のプログラムは保育園での生活レベル体験なども盛り込み今後の展開の一助を担った。
- 5) 新羽地区や新横浜地区の子育てサロンに通い、実践者と共に相談しながら子育て資源の場づくりのお手伝いを行った。また新吉田地区のひろば新設支援、および日吉宮前地区でのひろば準備委員会に参画した。
- 6) 横浜子育てサポートシステム
子どもを預かってほしい人と預かる人をつなぎ、地域ぐるみでの子育て支援を目指した活動を行った。入会説明会参加者1300名、コーディネーター数660件、事前打ち合わせ450件、を年間で対応した。また、区内幼稚園3ヶ所出張説明会を開催し、園児の保護者だけではなく地域の一般の方の参加もあり、関心の高さを実感した。次年度、どろっぴサテライトでの子育てサポートシステム事業の機能拡充が実現となり、その準備をすすめた。

2. 子育て支援に関する事業

預かり保育「まんまーる」

(1) 基本データ

	まんまーる大倉山	まんまーる篠原
① 対象	おおむね2～3歳 (各曜日:8名、一時預かり:各日2名)	おおむね2～3歳 (各曜日:6名、一時預かり:各日2名)
② 実施場所	横浜市港北区大倉山3-3-3 磯部マンション205	横浜市港北区篠原町1077 COCOしのはら内
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～13:00	火曜、木曜、金曜 9:30～13:00
④ 従業員数	9名	
⑤ 事業概要	幼稚園・保育園に入園前の子ども(2歳・3歳)を対象としたグループ保育。 登録制。	

(2) 報告

- 初めて親から離れて過ごす子ども達の気持ちを受け止め、安心して過ごせるよう留意する
一人ひとりのペースを大切にじっくり対応して、みんなリラックスして保育時間を過ごせるようになった。
発達がゆっくりなお子さんの受け止め方を、常にスタッフ全員で模索している。
保育前に各自その日の「一言目標」を掲げることで、より意識して保育にあたることができた。
今年度より『保育リーダー制』を導入し、各曜日リーダーが入れ替わり保育を中心になって進めている。
リーダー本人のやる気が引き出されると共に周りの協力体制も整ってきていると感じる。
- 保護者同士がつながりを持ち共に支え合いながら地域での子育てが楽しめるよう支援する
同じ曜日のメンバーで、お互いの子を理解し、見守り合う姿が見られるようになった。
おやこの広場びーのびーの・どろっぴ・企画室より地域のイベントを案内し、子育てを楽しむきっかけを提供できた。11月に5周年イベントを開催、記念誌を発行した。イベントは元利用家庭と企画し、OB会も立ち上がった。
- グループ保育後の延長保育や緊急時の預かり・職業復帰のための準備や就学などへの支援として、地域に役立てる保育を模索していく。
- おやこの広場びーのびーの・どろっぴとの連携を高めて子育て支援により役立てる場としていく
ひろばスタッフと常に情報を共有しながら保育にあたっている。出産前後の送迎を子育てサポートシステムと連携して行うことができた。

3. 子育てに関する地域の情報発信

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山5-40-3 大倉山壱番館207 (12月～)横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30
④ 従業員数	5名
⑤ 事業概要	<p>① 出版・制作・企画事業</p> <p>(ア)「びーのびーの幼稚園・保育園ガイド」の発行・販売</p> <p>(イ)制作・企画 各種制作(チラシ、冊子、パンフレット、HPなど)、 イベント実施</p> <p>(ウ)書籍販売</p> <p>② インターネット事業</p> <p>(ア)港北区子育て応援マップココマップ (ウェブサイトの編集・制作・運営)</p> <p>(イ)トレッサ横浜HP内「とれおんパーク」ブログ記事制作 トレッサ横浜委託事業</p> <p>③ 事務請負・コンサルティング事業</p> <p>(ア)子どもと保育総合研究所事務</p>

	(イ) 子育てタクシー (ウ) 子どもと家族支援研修センター事務 (エ) 横浜市子育て応援事業「ハマハグ」の地域における 広報・周知委託
--	---

(2) 報告

楽しく儲かることを探そう!!!

- 1) 新しい目線での事業の展開、開拓をする。
既存のやり方を見直し、新しいツールの模索のための勉強会を開き、効率的な方法を見出した。様々な団体(岩崎学園、Code for Kohoku など)との連携により新しい展開を実現した。物の動きとして、ネット会議、イーパーツ、テックスープなどを活用。人の動きとして、新しい企画室サポートメンバーチームを立ち上げた。
- 2) 幼稚園・保育園ガイドで、当事者の気持ち(入園前の親の不安や疑問など)を具体的な表現で編集していく。編集メンバーのガイド制作への気持ち(法人の理念)の共有を計る。協賛広告の拡大。当事者に近いメンバーの意見をきく機会をつくり反映に結びつけた。協賛広告の声かけを他事業以外にも広げることができた。
- 3) 港北区子育て応援マップココマップにおいて、当事者目線の内容を考え、編集メンバーに深く編集作成内容に関わってもらおう。作業の効率化を計る。
特集記事や議事録作成などに積極的に取り組んでもらった。編集会議での活発な話し合いを経て記事の作り込みを行なった。
- 4) トレッサ横浜HP内「とれおんパーク」ブログのメンバー拡大。イベントでは引き続きひろばなどに行く機会のない親子への情報発信の場として、コミュニケーションの場としていき、広い情報提供として隣接する鶴見区の情報も扱う。
イベントの記事も積極的に取り入れ広報につとめることができた。鶴見区の拠点などとも連携を深めることができた。
- 5) 子どもと保育総合研究所の丁寧な作業、効率のよい作業を心がける。子どもと保育総合研究所の発信内容を共有する。セミナー時における聴講の時間をつくるなどをした。
- 6) 子育てタクシーの活動を充実したものとして継続する。会議、朝礼などへ定期的に参加し、情報共有。当事者の力で新たな販促グッズを開発した。
- 7) 子どもと家族支援研究センターの活動スタートに携わった。
- 8) 横浜市子育て応援事業「ハマハグ」の地域における広報・周知委託により、主に港北区内の店舗・施設の「ハマハグ」協賛の働きかけ及び登録、「ハマハグ」おでかけMAP“大倉山編”の作成。
協賛の働きかけ及び登録は、目標数を大きく上回った。
- 9) 企画室内の情報共有を計る。月に1回の定期的なミーティングを設定し、情報共有をした。
- 10) 企画室の取組みを知ってもらう。Facebookなどでの発信を積極的に行なった。
- 11) 平成29年度程ヶ谷基金 男女共同参画・少子化に関する顕彰事業 活動部門 活動賞 受賞
平成29年度かながわボランティア活動推進基金21 ボランティア活動奨励賞 受賞
- 12) 学生実習受入れ
東京慈恵会医科大学、桐蔭横浜大学、明治学院大学、関東学院大学、横浜実践看護専門学校、横浜創英大学等

4. 子育てに関するセミナー・イベント・調査等の企画実施

(1) 基本データ

① 対象	子育て世帯
② 実施場所	横浜市港北区大倉山5-40-3 大倉山壱番館207 (12月～)横浜市港北区大倉山2-7-47 シャトレ大倉山103
③ 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30

(2) 報告

①取材、見学対応

現場視察会を開催した。法人が運営する子育て支援施設(おやこの広場びーのびーの、港北区地域子育て支援拠点どろっぷ)、地域福祉・交流スペース(COCOののほら)で施設見学、説明を行い、事業の啓発・情報交換の場とすることができた。また、実践者のための実務体験の場として活用されている。

②外部講演会講師、原稿作成依頼等

多摩市子育て支援者養成講座、港北つなぎ塾、かながわ国際交流財団、川崎市幸区認可保育所連絡会、厚生労働省こども子育て支援推進、江戸川総合人生大学、苫小牧市、日独少年指導者セミナー、情報誌取材等。

③外部委員会出席等

ひっとプラン港北、住友生命保険「未来を強くする子育てプロジェクト」選考、指定管理者選定評価委員会等。

④びーのびーの通信

2017年度は年10回(通常号8回、合併号2回)発行した。

おやこの広場びーのびーのとの連携が取れ、テーマ案や利用者の声が拾いやすくなり、原稿に活かされた。200号記念紙作成準備にあたり、全体会やおやこの広場びーのびーのなどで利用者の忌憚のない意見をもらった。

⑤絵本の会

おやこの広場びーのびーので活動。(おはなし会/隔月・バザー参加)バザー売り上げ金は各拠点への絵本寄贈。びーのびーの通信に絵本紹介執筆。定例会を実施。(9月・3月) 2月18日太尾宮前まつりに参加。楽器と共に読み聞かせを行った。3月に港北図書館にて絵本の団体貸し出し、入れ替えを行った。

⑥助成金・企画事業

(ア) ~みんなで夕食の会~『たべ~る“ば”大倉山』(よこはまふれあい助成金事業)

のびのび月曜日の参加者を中心に学童期に入った家庭を対象とし、年12回開催、参加家庭は14家庭。場所をまんまーからどろっぴに変更し、Sボランティア、学生ボランティアの協力があり、開催数とグループも増やして実施してきた。

最初は緊張も見られたが、ファシリテーターも同席のもと、毎回、話をしていくなかで、次第に親子ともに打ち解けていった。

(イ) 横浜市港北区とその近隣区における放課後等デイサービスに関する

紹介冊子「放デーってなあに？」作成とそれに関わる啓発事業(Y S市庭コミュニティー財団助成金事業) 林立する放課後等デイサービスについて、見学や座談会を通して、実際の活動内容、放課後等デイサービスの仕組み等を把握し、障がい児子育て家庭の居場所選びを、家庭だけでなく地域全体でサポートしていけるような手だてとしての冊子を作成し、啓発活動を行っている。

活動期間は平成29年10月1日から平成30年9月30日。

5. 地域型保育事業の運営

小規模保育事業 ちいさなたね保育園

(1) 基本データ

① 対象	生後57日から2歳児
② 実施場所	横浜市港北区師岡町824 第一ネッキビル
③ 開所日時	月曜～金曜 7時30分～18時30分 土曜 7時30分～15時30分
④ 従業員数	13名
⑤ 事業概要	「小規模保育事業A型」 定員19名

(2) 報告

1) ちいさなたね保育園を確立する

- ・月案週案を掲示し、毎日の保育の様子を写真も掲示することで、保育の見える化をした。
- ・小学館「幼児と保育」にちいさなたね保育園の保育が掲載された。

2) びーのの保育園だからできる連携

- ・どろっぴとのちょこっと育児体験。
- ・樽町中学校とのふれあい体験事前授業、職業体験の受け入れ。
- ・玉川大学、関東学院大学、首都大学東京の卒業論文のフィールドの提供。
- ・師岡町内会の公園愛護会と公園の花植え。
- ・法人の入社3年目研修をちいさなたね保育園主催で行った。

3) 笑える育児をめざす

- ・プール開放、おもちゃカフェ、親子遠足等での保護者の活躍。
エプロン製作、プログラムの絵、コーヒーコーナー、お楽しみ会でのピンクレディーメドレー披露等。
- ・地域の方のサンタクロースやハーモニカ交流。

6. 地域福祉・交流に関する事業

地域福祉・交流スペース COCO しのはら

(1) 基本データ

① 対象	子どもから高齢者まで
② 実施場所	横浜市港北区篠原町 1077
③ 開催日時	月曜～金曜 9:30～15:30
④ 従業員数	6名
⑤ 事業概要	<ul style="list-style-type: none">・ 日常的な多世代交流の場・ 介護予防的な講座や得意なことを活かせる活動スペース・ 食事の提供・ 庭づくりを通じた多世代交流

(2) 報告

- 1) 地域の中で、世代を問わず様々な人が出会い・交流・活動ができる「みんなの居場所」となる場をつくる。
「COCOしの通信」を毎月発行。篠原、近隣の地区の町内会の回覧板に通信を挟んでもらい、通信を置いていただける場所の開拓をおこなった。篠原地区のミニデイや老人会にご挨拶に数回伺い、COCO しのはらの説明や講座のお知らせをさせていただいたことで利用につながっている。
講座やプレミアムナイトを通して地域の方が講師として活動している。
毎週 1～2 回は講座やイベント、交流の様子をブログ・Facebook に更新。
- 2) 畑作りやお料理なども含む「食」を通して新しい出会いが生まれ、多世代が集まれるしかけをつくる。
ランチ、カフェがあることで多世代が利用し、子どもを通してそこにいる利用者同士が会話をし交流できるきっかけとなった。
- 3) さまざまな役割を担うことで、誰もがその人らしくいきいきと過ごすと同時に、健康づくりや介護予防プログラムも取り入れる。10月から介護予防・日常生活支援総合事業の助成を受ける。
篠原地域ケアプラザと連携し内容の確認をおこない利用登録につなげた。
地域の方との懇話会を1回開催した。料理や配膳、片付け、利用者との会話、お庭整備など地域の方が無理なく活躍することができた。
- 4) 多世代で入園前の子どもたちを見守る。
カフェの利用、講座参加に来られた方が子どもたちに声をかけたり、見守っている様子が温かい雰囲気である。子どもたちが安心して過ごせる居場所になっている。

7. 上記の事業を行うために必要な一切の活動

(1) 基本データ

① 実施場所	横浜市港北区大倉山 5-40-3 大倉山耆番館 207 (12月～)横浜市港北区大倉山 2-7-47 シャトレ大倉山 103
② 業務時間	月曜～金曜 9:00～17:30

(2) 報告

- 1) 法人運営に関わる一切の会議開催
理事会 (年 3 回) 全体会 (年 2 回)
運営連絡会・会計チェック (毎月開催)
会計チェック 毎月開催
- 2) 法人内部研修開催
初任者研修 (全 3 回)
法人全体研修
- 3) 会員登録、寄付金協力の手続き及び管理
会員登録手続き及び管理 (メーリングリスト等による法人情報の発信)
指定 NPO 法人として必要な手続き及び管理業務 (寄付金協力者の管理、寄付金受領書の発行手続き)